

鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会

NEWS LETTER

Documentation No.20

ドキュメンテーション

■国際インターンシップ 世新大学にて / 世新大学・中山大学より



世新大学・中山大学の学生とドキュメンテーション学科の学生と

2014年度の特別実習Ⅱは、3月3日（火）から3月11日（水）の8泊9日間の日程で、台湾の世新大学での研修を実施しました。参加者は1年生6名、2年生7名、3年生2名の計15名。過去最多となりました。

主な研修プログラムは、3月4日（水）國家發展委員會檔案（公文書）管理局、台中の國立公共資訊圖書館、高雄の佛光山佛陀記念館、5日（木）高雄市長官邸圖書館總館、國立嘉義大學、6日（金）台北市立図書館・西門智慧圖書館、世新大学図書館、同大学テレビスタジオ、及び同大学講義受講、7日（土）故宮博物院、台北市内見学、8日（日）九份散策、9日（月）國立台灣圖書館、台灣大学校史館や圖書館、10日（火）英語での研修成果発表会でした。

見学や大学の授業はすべて英語でしたが、鶴見大学の学生は熱心にノートをとり積極的に質問や発言をしていました。また、同じ教室で授業を受けたり、見学に同行した世新大学の学生と、放課後や休日は観光地の小旅行や市内の名所を散策し、交流を深めました。

一方、ドキュメンテーション学科の方でも、本年度（平成27年度）7月1日（水）から15日（水）まで、世新大学の大学院生・学生15名と、中山大学（こちらは7月8日から）の学生10名を、国際インターンシップ生として受け入れました。まず初日、世新大学の皆さんが到着した夕方頃から、歓迎会を開催しました。自己紹介などの合間に、すでに世新大学での研修で友人となって

いた学生同士の、再会を喜ぶ姿があちらこちらで見られました。また、ちょうど実習期間中の7月11日（土）に、ドキュメンテーション学会の総会がありましたので、そこで中山大学の皆さんの歓迎会も行うことができました。

プログラムとしては、情報学や図書館学の授業でのグループワーク、書誌学の授業での、漢字と仮名についての講義と、日本の昔の書物の展示、といった学内研修に加え、横浜中央図書館や横浜美術館、慶應義塾大学三田メディアセンター・ス道文庫、東芝未来科学館などなど、学外での研修も行うという、盛り沢山の内容でした。

期間中、教員はもちろんですが、本学の、たくさんの学生や大学院生が、大変力になってくれました。せっかく来日してきたのだから、少しでも満足してもらいたい、という心意気が、強く感じられました。言葉の壁も、がんばって乗り越えていました。

本学科から台湾に行く場合でも、逆に台湾や中国からの学生を、本学科で受け入れる場合でも、研修の内容はもちろんですが、こうした、国を越えての、学生同士の交流が芽生えること、その後も続けていることが、実のところ、いちばん大事で、最も豊かな収穫なのだろうな、と、あらためて痛感しました。参加、協力してくれた皆さん、本当におつかれさまでした。

ドキュメンテーション学科主任

角田 裕之 Hiroyuki Tsunoda

世新大学にて



世新大学情報コミュニケーション学科の教員・大学院生と記念撮影



国立公共資訊圖書館の児童コーナーにて



高雄市立圖書館總館にて司書の方の説明を熱心にメモする学生



研修生会の発表会の様子

◇国際インターンシップに参加するきっかけとなったのは、去年の6月頃に行われた、世新大学の学生との交流会に参加したときでした。英語で話すことに不安がありましたが、皆さん優しく積極的に話しかけてくれ、楽しい時間を過ごすことが出来ました。◇実際に台湾へ行ってみると、多くの学生の人たちが出迎えてくれ、毎日私達の事を気にかけてくれました。また、夜の少ない自由時間では台北市内を案内してくれたり、学生同士の交流も多くはかれました。◇そして、最先端の技術が詰まった台湾の図書館を見学することで、日本の図書館の現状や問題点などより知るきっかけになる良い機会になりました。とても楽しく有意義な日々を過ごすことができ、今後の大学生活に生かせればと思います。

■清水綾香（2年）

◇今回の特別実習Ⅱが私にとって初めての海外体験となった。出発する前は初めての海外ということで言葉や食事など様々な不安があった。◇しかし行ってみると世新大学の学生がいろいろな所を案内してくれた。さらに地元の人が知らないような食堂に連れて行ってくれた。そこで食べたスズキの味は一生忘れることはないだろう。◇もちろん観光だけではなく、台湾の図書館事情を見学によって幅広く学ぶことができた。特に高雄市立図書館では、公的資金に頼らずに、図書館運営資金をいかに獲得するかという課題に挑む、図書館の姿を知ることができた。今回の実習は、図書館について学ぶだけではなく人々とのコミュニケーションという点でもたくさん学ぶことができ、有意義だった。

■星野ゆう子（2年）

◇この台湾研修を履修したのは、単純なのですが、一度日本から出てみたかったから、という理由だけでした。◇最初は英語が苦手であったのですが不安でしたが、いざ行ってみたらワクワク感の方が大きかったです。◇台湾の図書館見学では、日本よりも工夫があって驚かされてばかりでした。◇勉強だけでなくしっかり遊びの方も充実していますよ！料理はすごく美味しかったですし、建物も独特で古惚けた感じが味わいがあって、そうした日本との違いを発見することも楽しかったです。◇みなさんももし興味があったら是非行ってみてください。

■橋本朋美（4年）

世新大学 / 中山大学から

◇日本の図書館は台湾とは随分違ってきます。建物は非常にきれいで、どの本にも番号が付いており、しまわれる位置が決まっています。別の階に本を届ける機械までありました。台湾では、時々あるはずの本が見つからないことがあります。一方で、電子書籍の収集には台湾ほど熱心ではないようでした。◇また、古典籍のすばらしいコレクションにも驚きました。見学したどの図書館でも、一般には公開されていない古い書物に触らせてもらい、とても幸運でした。◇鶴見大学の図書館の自習室にも感心しました。個人用のスペースを確保できるのはすばらしいと思います。◇初めての日本訪問で、日本の学生と会うことは楽しみでもありましたが、不安でもありました。幸い、みんなとても親切で、私が理解できない時には、わかるまで繰り返してくれました。◇この研修での私の最も大きな進歩は、英語で話しかけられるようになったことです。親切だった鶴見大学の方々のおかげだと思っています。

■田宇涵 Tien, Yu-Han (世新・1年)



3大学の学生によるグループワーク



東芝未来科学館での見学

◇インターンシップ中の授業の一環で、日本語を勉強し、私の名前の日本語のつづり「ちんぎょくぶん」を知りました。鶴見大学の学生と一緒に、自己紹介のスライドを作る作業をし、私達は日本語を、彼らは中国語を話すことになりました。日本語の文字は、もとは中国語から取り入れたのだそうですが、それでも私には、日本語はやはりたいへん難しく感じました。◇放課後や休日は、鶴見大学の学生と、明治神宮、朝顔まつり、浅草など、いろいろな所に行きました。日本の文化を知って、カルチャーショックも受けました。ほとんどの地元の人々はマナーが良いですし、ゴミをそこらに捨てるようなこともしません。◇国際インターンシップでは、教師や学生をはじめ、多くの日本人と会うことができ、台湾と日本の文化の違いについても考えさせられました。私にとって初めての海外経験であり、貴重な記憶となることでしょう。

■陳鈺文 Chen, Yu-Wen (世新・3年)

2015 国際インターンシップ

◇考えることと議論することによって進める、という授業スタイルは、中国の大学とは大きく異なります。学生がPCを使ってノートを取ることで、講師がひととおり説明をした後で質疑と討論をすること、これらはとても良い学習方法だと思いました。◇日本と台湾の学生とたくさん友達ができました。鶴見大生はとても友好的だしすごく助けてくれましたけれども、少しシャイですね。台湾の学生たちは積極的でした。私達は遅れて参加したのですが、両方の学生からいろいろ教えてもらえたので助かりました。

■覃潇颖 Qin, Xiaoying (中山・2年)

◇日本人が親切で感銘を受けました。ある日私達は乗るバスを間違えてしまったのですが、幸い2人の若い日本の男性が、鶴見に戻るバス停を英語で教えてくれました。礼を言って別れたのですが、しばらくすると彼らが追いかけてきて、間違いなく戻れるようにと、紙にペンで詳しい説明を書いてくれたのです。◇ゴミの分別も印象深いことでした。最初は街でゴミ箱を見かけないのが不思議でしたが、ほとんどの人が分別するために家にゴミを持ち帰るということが分かりました。この点で日本に追いつくには私達はまだまだ時間がかかりそうです。

■陈序 Chen, Xu (中山・1年)

教 育 実 習

教員への気持ちが強まった3週間

Ryota Shimizu 清水 諒太

6月1日から6月19日の約3週間の期間で教育実習を行った。担当させて頂いたのは、高校1年生の12クラス中10クラスの「社会と情報」の授業であった。基本的には、2校時連続の授業で、生徒に対して2人の教員が教育指導にあたる、TT (Team Teaching) と呼ばれる形であった。放課後には授業内容であるビジネス文書の課題作成が終わっていない生徒たちの作成補助や、指導を行った。

教育実習が始まる前は、大変であり、辛い期間と、いろんな方に聞いていたが、個人的には全くそう感じることはなかった。周りの先生方や生徒のおかげで、本当に充実していて、全力で楽しむことができた3週間であった。

将来について、もう一度考える期間にしようと思っていたが、貴重な3週間を経験したことで、より一層教員になりたいと思う気持ちが強くなった。素晴らしい体験をすることができ、受け入れて頂いた実習校並びに、先生方や生徒には本当に感謝をしている。

学生の声

図 書 館 ア ル バ イ ト

経験を積んでいます！ 横浜市神奈川図書館

Ayako Sasaki 佐々木 文子

私は現在、公共図書館でアルバイトをしています。

私は図書館司書を目指しており、実際の図書館業務を経験したかったため、アルバイトを始めました。日々の業務内容は主に、本の貸出、返却を行ったり、返却された本を元の棚に戻したりすることです。それに加え、利用者が予約した本を棚から確保したり、他の図書館から送られてきた予約本を所定の棚に入れたりする作業もあります。

大学で図書館について学んできたとはいえ、最初はカウンター業務もままならない状態でした。しかし、働いていく中で、利用者との接し方を学び、また、図書館業務の知識や経験を得ることができました。現在では、仕事における工夫も学び、効率よく業務を行うことができるようになりました。



授業の合間に実務を経験 鶴見大学図書館

Satoshi Shibata 柴田 悟司

私は2年生の前期から鶴見大学図書館でのアルバイトをしています。図書館でのアルバイトは授業時間に合わせたシフトになっているため、授業とアルバイトの両立がしやすいという特徴があります。そのおかげで私自身も、授業のない午前中や授業と授業の間に空いた空き時間などに図書館アルバイトを入れる事で成績を維持したままアルバイトをやっています。

業務内容は1階のメインカウンターでの業務と、地下の視聴覚室のカウンター当番、そして他大学などから来る要請に応える文献複写が主となっています。来館者の対応状況に応じて図書の入替えや修繕、登録なども頼まれることがあります。初めて行う業務に関しては図書館職員の方々から教えてもらえるので、経験がなくても安心です。将来、図書館で働きたいと考えている方や、学業とアルバイトの両立で迷っている方には鶴見大学図書館でのアルバイトをぜひ、お勧めします。

学芸員 実習

神奈川近代文学館

展示・閲覧と未来に残すことの大切さ

Maaya Hazawa 羽澤 蒔紋

7月21日から26日まで、神奈川近代文学館にお世話になり、展示や保存に関する作業を経験させていただきました。

展示作業では「まるごと 佐野洋子展」の会場設営や展示用パーツ作りを行いました。資料を傷めず展示するため、寸法に合わせた展示用パーツを手作りすることや照明を調節するといった工夫について学びました。

また、雑誌の修復、図書の保存用装備といった作業も経験させていただきました。文学館では展示のことを考え、雑誌を製本せず、発行された当時の状態のまま保存しています。古い雑誌は傷みが激しく取扱いの際には緊張しました。資料の展示・閲覧と、保存し未来に残すことを同時に行う大変さを学びました。



講義では学べないこと

Misuzu Takahashi 高橋 美鈴

今回神奈川近代文学館で実習を受けて学んだことは、大学での座学や実習では学べない、より実務的な経験をさせていただいたことでした。資料に対する扱い方や価値、保護の仕方など、今回の実習で初めてのことが多く、もしも私が学芸員として働くことができたとき、この経験により仕事の幅が広がるのではないかと考えています。

また、展示に関して経験させて頂いたことも、今後学芸員として働くことができた時の考え方を学ぶきっかけになりました。今までは、資料の扱い方、大切さということ学ぶことが多く、その資料の見せ方ということは座学のみで、想像の域を出ず曖昧でしたので、そのことを実際に体験できたことは大きいと思います。

大学院 便り

研究発表から修士論文へ

Chiyo Hagihara 萩原 千代恵

大学院では研究成果を学外で発表をする機会が増えました。国内では、今年の6月に、同志社大学で開催された第14回情報メディア学会研究大会において「大学図書館におけるTwitter利用とインプット・アウトプットの相関分析」のポスター発表をしました。

海外では、昨年の12月に、北京大学で開催された国際会議 ICPE2014 において、「A New Initiative to improve the Quality of LIS Education through the Internship Program for Students aligned with the International Conference」を英語で口頭発表しました。今年の8月には、南アフリカのケープタウンで開催される国際図書館連盟 (IFLA)・世界図書館情報会議 (WLIC) 年次大会で「The utilization trend of Twitter served by academic libraries in Japan」のポスターを英語で発表します。

こうした研究の過程で、国内外の研究者から自分の研究に対して有益なアドバイスをいただけることがあります。これらの経験を踏まえて修士論文「Twitterを用いた利用者との相互コミュニケーションによる図書館活性化に関する効果の研究」を深めていきたいです。



IFLAの会場にて

新任教員挨拶

この4月、ドキュメンテーション学科では新任教員2名を迎えました。田辺先生は情報学コースの科目を、河西由美子先生は図書館学コースの科目を、それぞれ担当します。どうぞよろしく申し上げます。

Yoshinori Tanabe
田辺 良則

2015年4月に赴任いたしました田辺良則と申します。長塚先生の後任として、情報学コースを担当しており、データベース系の講義を行っています。



ご承知のように、きょうびは至るところ計算機システムが入っていて、嫌でもこれにつきあわざるを得ません。学生の皆さんが情報学を学ぶのは、こういう時代を生きていく力をつけるためでしょう。そのためにはWordやExcelの使い方を覚えるようなことも必要です（私の担当講義でもやりますが、それだけでは不十分で（こういうアプリは10年後には無くなっているかもしれません）、計算機を働かせている原理はどういうものか、そもそも計算機が扱う情報とは何か、といったことを考え、身につけてもらいたいと思い、そういう授業を目指しています。

私自身は数学科の出身で、いくつかのIT企業で10年ほどソフトウェア技術者として働いた後、研究の世界に戻ってきました。専門分野は、計算機科学、ソフトウェア工学、数理論理学などです。文科系で情報学を勉強する皆さんと自分の専門とをうまく折り合わせるべく、日々手探りで進んでおります。どうぞよろしく願いいたします。

Yumiko Kasai
河西 由美子

4月から図書館学コースを担当することになりました河西（かさい）由美子と申します。2015年3月まで10年余り東京都町田市の玉川大学教育学部・通信教育部で教鞭を取ってきました。



主として小学校の先生を養成する学部から、情報学・書誌学・図書館学を並行して学べるユニークなドキュメンテーション学科に来たわけですが、実は私自身も文理融合型の大学院の出身で、図書館情報学と教育学・教育工学など複数分野にまたがる研究を行ってきました。クラスメートにも文系理系を問わず多面的に情報について研究する人が多くいましたので、文学部にありながら情報学が学べ、図書館司書の資格を取りつつ書誌学系の科目では古文書の読解や扱い方も学べるという本学科の構成には親しみと居心地の良さを感じています。一つの枠に収まらず、複数分野を軽やかに越境していく姿勢、そうした知的なしなやかさは現代を生きる上で不可欠な資質ではないかと思っています。

今後は皆さんと一緒に、図書館や情報・メディアの問題を、教育学の知見や学習プログラムの開発を通して解決するアプローチに取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしく願い申し上げます。



入学式後の記念撮影

❀ 12期生の皆さんです ❀

今年度ドキュメンテーション学科に迎え入れた72名の新入生の皆さんです。

4月は、入学式、新入生交流会、PC貸与説明会、神奈川県立図書館・三溪園への見学会と催し物が続き、慌ただしいうちに時間が過ぎていったと思います。

大学の授業にも馴れてきた今、学生生活を楽しみつつも、各自新たな目標を胸に、日々努力していることでしょう。



三溪園にて

【オブラーテ図書館〔フィレンツェ、イタリア〕】

Biblioteca delle Oblate, Firenze, Italy

フィレンツェの中心に君臨するドゥオーモ（Duomo, 大聖堂；Cathedral）は、およそ 140 年もの月日をかけてフィレンツェの人々が作り上げてきた街のシンボルであり、おそらくは市民としてのアイデンティティに重要な位置を占めている。世界中から集まってきた観光客が、ドゥオーモに群がり、観光名所として景観を消費し、荒らしていようと、フィレンツェ市民は私たち観光客を自由にさせてくれている。これ程の寛容さは、これは自分たちのもの、という確固たる気持ちがあればこそ生まれてくるのだろう。このドゥオーモから 1 ブロック西側にオブラーテ公共図書館がある。



図書館入り口

2、3 階には一般向けの図書室、別棟の 1 階には子供向けの図書室がある。書架は壁に沿うように置かれているわけでもなく、ほどよいリズムで、部屋の中にも立ち並び、その合間に机や、時に椅子だけが置かれている。テーブル席で熱心に仕事をしている学生もいれば、椅子席でデザインの本を眺める大人がいたり、それぞれの目的に合わせて快適に過ごせる空間が作られていた。建物の中庭に面した廊下にもテーブルが置かれ、そこには談笑するグループや、明らかに宿題をこなしているのだろう若者がいた。そして、3 階には、カフェを併設する開放的な読書空間が用意されている。



図書室

ドゥオーモから近いこの図書館は、狭くて交通量が多く、騒がしい通りに面しているが、この 3 階の空間は、観光客のものではなく、明らかにフィレンツェ市民のものである。市民が自分たちの大切なドゥオーモを眺めながら、思索に集中できる空間になっている。わたしのような観光客は、ここではひっそりと、心から遠慮しながら、このとっておきの空間をお裾分けしても

らう、という気持ちが必要なのかもしれない。夜になると、ライトアップされたドゥオーモが、美しい姿を見せてくれる。

観光客が入るべきではない空間のような紹介をしたけれども、この図書館の構造は少し複雑で、図書室への入り口を探していたとき、司書の方を捕まえて場所を尋ねると、満面の笑みで「2 階に図書室があるわ、そうカフェは 3 階ね、すっごくいい所よ、楽しんで！」とエレベーターまで案内された。フィレンツェ市民は、わたしのような観光客をどこまでも受け入れてくれるほど、自分たちの街に誇りを持っているようだ。（大矢一志）



ドゥオーモを望む読書室

アクセス：ドゥオーモから西に延びるオリウオロ（Oriuolo）通りを 1 ブロック歩いたところ。

開館時間：14:00-22:00（月曜） 9:00-24:00（火曜 - 土曜） 日曜閉館。夏休みは開館時間に変更がある。カフェの営業時間は図書館と同じ。

アドレス：Biblioteca delle Oblate, Via dell'Oriuolo, 26, Firenze, Italy

http://www.biblioteche.comune.fi.it/biblioteca_delle_oblate/

■ 4月3日 新入生交流会

オリエンテーションに加えて、新入生交流会を実施しました。新入生に加えて、大学院生や教職員の自己紹介も実施しました。

■ 4月4日 2015年度入学式

ドキュメンテーション学科 12 期生の皆さんが入学しました。入学式後、学科別に教室へ移動し、教職員が挨拶をしました。

■ 4月6日 ノート PC の貸与

4 年間の学生生活で活用してもらうために、ノート PC を貸与しました。

■ 4月18日 バス見学会 (神奈川県立図書館・三溪園)



神奈川県立図書館にて

地元である神奈川県を知ってもらう・見直してもらうために、神奈川県立図書館と三溪園へ見学に行きました。図書館では、本学卒業生が何人も働いていました。

■ 5月11日- 6月22日 特別実習 I 事前授業

夏休み期間、図書館や書店、色々な企業等で実際にインターンシップ生として実習に行く前に、4回にわたって事前授業を行いました。今年度の実習生は4名ですが、皆さん熱意を持って取り組んでいます。

■ 5月18日・6月1日 パソコン補習

1 年生の前期必修授業「情報機器教育論」で実施しているタイピングテストで補習対象となった学生たちに、タイピングのコツを伝えました。10 分間で 400 文字の入力が目標です。

■ 5月31日・7月8日 学内合同企業説明会

5/29 は約 50 社、7/8 は約 15 社に来学いただきました。授業が重なっている学生もいましたが、4 年生が参加し、説明を受けていました。

■ 7月1日-15日 国際インターンシップ

台湾・世新大学と中国・中山大学から 25 名の学部生・大学院生がインターンシップ生として来日しました。2 週間間に、数々の授業を受け、東京と神奈川の施設 (図書館や研究施設等) を見学しました (p1-p3 参照)。

■ 7月11日 研究室説明会と学会総会の開催

研究室配属に向けて、3 年生に教員から研究室の説明を実施しました。その後、ドキュメンテーション学会総会を開催。2014 年度の事業・会計報告、監査結果報告、2015 年度事業・予算計画が報告されました。終了後は台湾・中国からの国際インターンシップ生も参加した交流会を実施。学年、大学の枠を越えて交流を深めました。



ドキュメンテーション学会総会後の交流会

※活動報告の詳細は学科ブログ (<http://blog.tsurumi-u.ac.jp/doc/>) でご覧になれます。

- 「ドキュメンテーション」第 20 号をお届けします。
- 2015 年度国際インターンシップの特集号です。
- 教育実習・学芸員実習に参加した学生、図書館でのアルバイトをしている学生や修士論文の執筆に奮闘中の大学院生たちの声をお伝えします。
- 4 月に学科に迎えた 2 人の新任教員を紹介します。

ドキュメンテーション 第 20 号
平成 27 (2015) 年 8 月 22 日 (土)
鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会
横浜市鶴見区鶴見 2-1-3 (〒230-8501)
☎ 045(580)8149 発行責任者: 角田 裕之
学科ホームページ: <http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/docu/>